

1. 本園の教育・保育目標

「なかよく あかるく元気に 挑戦する子」の育成

2. 本年度の重点と取組

- 【教育方針】
- 【教育・保育内容】
- 【保護者との連携】
- 【食育】
- 【安全管理】
- 【連携】
- 自分で考えて行動したり、自分から挨拶したりする子どもを育てる。
集団としての基本的な生活態度の育成。子どもが興味関心をもって取り組む環境づくり。
相談しやすい雰囲気づくり。適切な情報発信の工夫。
植物の栽培やクッキングなどを通して食べる楽しさを味わう。給食のマナーを学ぶ。
危機管理マニュアルの見直し。安全点検の実施。避難訓練等を通しての安全教育。
短大や近隣の小学校、地域の施設等と連携して、子どもたちに豊かな経験をさせる。

3. 評価項目と内容および取組状況

☆評価 A：十分達成 B：ある程度達成 C：部分的な改善が必要 D：全面的な改善が必要

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
教育方針	1 こども園は、教育・保育の目標や方針を分かりやすく伝えている。 2 こどもたちは、本園の教育・保育目標である「なかよしな子・あかるく元気な子・ともに生活し挑戦する子」に向かって成長している。	A	園だより等で、毎月の教育・保育目標を伝えてきたことで、一定の理解をいただくことはできた。 文章や言葉だけではなく、毎日の活動の配信でも、教育・保育方針を繰り返し伝えていくことで、より理解を深めていただけると考える。
外部評価委員による意見		・保護者アンケートからも、園が教育・保育の中で何を大切にしているか、機会を捉えて保護者に伝える努力をしていることがわかる。幼児教育の大切さ、遊びを通してこどもたちが多くのことを学んでいることを、活動の様子だけでなく伝えていくとさらに良いと思います。 ・園の教育・保育目標を、日々の生活の中で実践している。降園時の保護者とのコミュニケーションも含め、保護者と保育者がともに目標に向かい成長する子を見守っている。 ・各々の欲求の赴くままに遊んでいる姿から、教育・保育方針に則り、自発的に活動できるような指導の成果を見ることができた。 ・毎日の「キッズリー」での配信で、保護者とこどもたちは日々の出来事を共有できている。この繰り返して保護者への理解を深められると思います。	

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
教育・保育内容	3 こども園は、一人ひとりの個性を大切に、意欲や自信を持てるようにしている。 4 こども園は、あいさつや身の回りの始末など、集団としての基本的な生活習慣を身に付けられるよう努めている。 5 こども園は、工夫した行事を行っている。 6 こどもたちは、園に行くのを楽しみにしている。	A	本園の教育・保育活動に対しての一定の理解は得られたものと考えます。しかし、行事について多くのご意見をいただいた。今後行事内容について、前例にとらわれることなく、園児にとってよりよい行事となるよう、改善を図っていく。 幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある、「生涯にわたる人格形成の基礎」を培うことができよう、園児一人ひとりを大切にした教育・保育を進めていく。
外部評価委員による意見		・行事について、見栄えや大人が見てすばらしいものをするということではなく、そこに至る過程の中で育てていること、こどもにとっての行事のあり方についての園の考え方を、保護者に伝えていくことで、より理解が得られるようになるのではないかとと思う。 ・教職員が、個性を摘むことなく一人ひとりの多様性を尊重したレベルの高い教育・保育が実践されている。 ・前例にとらわれることなく、今までにない外部講師の教室（水泳、体操、ピアノ、ダンス等）を取り入れるとよいと思う。時間のない共働き家庭には高いニーズがあると思う。 ・園児の特性を理解するよう努力し関わっていることがわかる。理解したうえで、個性を大切に、自信を引き出す教育・保育を行っている。 ・園児が普段から保育者以外の人と会っても、明るく挨拶ができています。日々の保育者の姿が、園児に反映されていると思われる。	

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
保護者との連携	7 こども園は、園の情報を「キッズリー」や「園だより」を通して、わかりやすく伝えている。 8 こども園は、いつでも気軽に相談できる雰囲気があり適切な対応をしている。 9 こども園は、家庭への連絡を適切に行い、意思の疎通に努めている。 10 こども園は、けがや発熱時に、丁寧にわかりやすく伝えている。	B	毎日の「キッズリー」の配信等で、園での様子を伝えてきたが、「わかりにくい」等のご意見をいただいた。今後は、園での活動の様子を、より分かりやすく、こどもたちの「心の動き」がわかるような配信を模索していきたい。 けが、発熱等、園児の健康に関わる連絡は、些細なことでももれなく伝えるよう努める。
外部評価委員による意見		一つひとつ、とても丁寧に評価されていると思います。遊びの中でこどもたちに何が育っているのか、目に見えない「心の育ち」を伝えるには、保育者が保育を説明できる力が必要だと思う。その努力をされていることが素晴らしいと思う。 ・分かりにくいと感じることもあるが、忙しい中、毎日園での様子を伝えてくれていると思う。 ・保護者連携という意味では、連絡事項のメモを渡す、提出物の期限を守る等、当たり前のことをすることが大切だと思う。 ・けが・発熱等の連絡では、相手方の状況も考え「キッズリー」での連絡もよいのではないかと。 ・連絡過多と思われるくらい、必要な情報を迅速に提供する必要があります。その重要性を理解し、思慮深く誠実に履行されていると感じる。 ・保護者に伝わりにくいことが、手続き上の問題か、文面による問題かをよく検討する必要がある。発信することが目的とならないよう、保護者の求めている情報に視点を向けていくとよい。	

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
食育	11 こども園は、栄養バランスや衛生管理等に配慮し、安心安全な給食を提供している。 12 こども園は、野菜を育てたり、食べたりする経験を通して、「食」への関心を高めるようにしている。	A	本園の大切な柱であり、大きな評価をいただくことができた。 新たに始めた食育活動を、給食室との連携を図りながら、さらに進めていき、こどもたちの「食」への興味・関心をより深められるよう計画をしていく。
外部評価委員による意見		・先生たちも、生き生きと園の取り組みを進めており、こども園の特色を活かしておられると思う。 ・この分野が圧倒的に評価されている。さらに、こども園での食育が、家庭での食育につながるような活動を取り入れるのはどうか。（給食だよりにお弁当づくりのヒントを入れる等） ・こどもから特別ゲストの話をよく聞くので、給食室だけではなく、短大の食物栄養科の先生・学生との連携を検討してみたい。 ・事故防止に取り組みながら給食室との連携により、成長に有効な提供ができています。多様な食に対する癖があると思うが、食への意欲向上のため、一層緻密な指導に期待する。 ・栄養面、衛生管理については申し分ないと思うが、身体的な発達、咀嚼力等、年齢による理解に収まらない部分について、特に未満児が安全に食することができるよう、栄養士との連携、研修等で、個々にあった指導を行うことが望ましい。	

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
安全管理	13 こども園は、避難訓練や安全指導（交通安全・防犯）を通して、こどもが安全に対する意識や習慣が身に付けられるよう努めている。 14 こども園は、感染症に対する対策を、十分に行っている。	B	感染症対策に対するご意見を多数いただいた。感染症拡大期の行事のあり方や活動内容等、見直せるところから見直しを図り、改善に努めていく。また、見直しの状況を細かに伝えていくことで、保護者の理解を得ていきたい。
外部評価委員による意見		・園として日々努力し、感染症に対しても、その対策に十分に努めていると思う。 ・感染症対策は、人によって感じ方が違うので、評価が難しい。 ・手洗いは大切だが、手の洗いすぎによるものか、今年度はこどもの手の荒れが気になった。指導が行き届いているためだと思うが、肌の弱さへの配慮もあるとよいと思われる。 ・大きな感染症の集団発生が少なく、日常の予防対策が功を奏しているものと思われる。 ・手洗いを丁寧にやる姿が見られ、保育者の水分補給への声掛けも適切に行われており、園生活の中で、園児の健康維持がしっかりと行われている。 ・集団生活の中での感染症対策は難しいが、予防対策により力を入れ、保護者の理解を得ていく必要があると思われる。	

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
連携	15 こども園は、様々な人と関わる体験ができるよう、短大・大通り保育園・地域・近隣の学校等との連携をしながら、教育・保育活動を進めている。	A	年長児を中心に、小学校、大通り保育園との交流活動を行ってきた。短大の学生との交流も、例年通りに行ってきたが、地域との連携が不足していると感じる。幅広く地域の方々と関われるような方法を模索していきたい。
外部評価委員による意見		・連携先と互恵性のある関係が構築できるよう、今後も進められることを望みます。 ・イベントとして終わるのではなく、こどもたちに何が育ったのか園から発信していくことも、連携を深めていくには必要かと思います。 ・前例にとらわれることなく、こども園でできる範囲での連携を期待する。 ・本園が誇れる短大の学生、大通り保育園児との交流により、こどもながらに融和・協調の意識が育まれていくものと思う。 ・短大の学生との交流では、園児も楽しく参加している姿が見られていた。学生も、園児と関わることで、保育者になるための心構えを持つことができ、相乗効果を期待している。 ・更なる地域との連携により、地域の中で教育・保育活動を進め、地域で園児を育てる工夫を期待する。	